

# 「喜作新道」を開設した北アルプスのスーパー猟師

## 小林 喜作(こばやし きさく) 穂高 牧(まき) 出身

〈喜作が活躍した時代〉 1875(明治8)年～1923(大正12)年 享年49(歳)

| 明治     |                      |              |                          |         | 大正     |                                |                                   |        |        | 昭和      |
|--------|----------------------|--------------|--------------------------|---------|--------|--------------------------------|-----------------------------------|--------|--------|---------|
| 8      | 25                   | 26           | 35                       | 38      | 5      | 6                              | 9                                 | 10     | 11     | 12      |
| 穂高牧に誕生 | 日本にヨーロッパの近代登山が普及し始める | ウエストンが大町に来る。 | 篠ノ井線開通。明科駅から多くの登山家が出てくる。 | 日本山岳会設立 | 大系線開通。 | 喜作新道着工<br>百瀬慎太郎が日本で初の山案内人組合を設立 | 喜作新道完成<br>大系線で多くの登山客来る。登山の大衆化始まる。 | 殺生小屋完成 | 殺生小屋開業 | 雪崩に遭い死亡 |

### 「山の主」、「岳の庄屋」とも呼ばれた“超人”喜作はこんな人だ!!!

#### 喜作の猟師哲学

だいたいクラシシ(カモシカ)や雷鳥なんてものは、山にただおいてあるだけのもので、人はズクを出してこれを獲るものだ。問題はただそのズクを出すか出さないかぜ。

4m 近い大木を担いだまま道端で立ち話をするほどの怪力の持ち主!



**伝説1** 死ぬまでに仕留めた獲物は、熊 300 頭、カモシカは 2000 頭以上と言われている。

**伝説2** 殺生小屋を建てる際、一日の作業が終わって夕食を食べ終わると、トタンを取りに行くと言って立ち上がり、みんなが危険だからと止めるのを振り切って中房温泉へ下り、翌朝にはトタン 60 kg を背負って登ってきた。その道は現在のコースタイムで 24 時間もかかる道である。

**伝説3** 鉄砲を持たずに熊に襲われたとき、たまたま持ち合わせていたトビで一撃を食らわせた。熊がひるんだ隙に内ふところへ飛び込み、持っていた山刀で心臓めがけてひと突きすると、熊はころりと横に倒れた。

#### 喜作が後世に残した「喜作新道」

安曇野市は、北アルプス(表銀座)の登山の拠点として、毎年多くの登山者が訪れています。喜作が開設した喜作新道は、現在、燕岳から槍ヶ岳へ縦走するときに通る登山道です。左手に大天井・常念・蝶ヶ岳、右手に深い高瀬渓谷を超えて、三俣蓮華・双六・笠ヶ岳などの裏山脈を望みながら、一面に咲き乱れるお花畑の稜線を行くデラックスな眺めの人気のコースです。

この喜作新道から槍ヶ岳を眺めたら、山の魅力にとりつかれずにはられません。

#### 喜作新道のすごいところ!

この道の開設まで、中房温泉を起点とした槍ヶ岳への縦走路は、4日も5日もかかっていましたが、この喜作新道の開通によりたった1日で楽に行けるようになりました。すばらしい眺めの上、たった一日で槍ヶ岳へ縦走できるとあり、登山者が急激に増えました。

3年の年月をかけ、喜作はこの道をほとんど息子と二人でつくってしまったというから驚きです。

#### 参考文献

- 「がいどぶっく・安曇野の里『穂高ものがたり』」中島博昭 1977 出版安曇野
- 「北アルプス開拓史」中村周一郎 1981 郷土出版社
- 「喜作新道—ある北アルプス哀史」山本茂美 1971 朝日新聞社
- 「安曇野市ゆかりの先人達 HP」